令和３年度　第１回飯島町総合教育会議

開　会	令和３年12月20日　午後１時15分
	１　開会
片桐教育次長	ただ今から第１回総合教育会議を始めます。 令和３年度第１回総合教育会議を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日進行を務めさせていただきます教育次長の片桐ございます。よろしくお願いいたします。それでは早速でございますけれども、ご挨拶を下平町長よりよろしくお願いいたします。
	２　あいさつ
下平町長	皆さんこんにちは。飯島町総合教育会議にご案内を申し上げましたところ、教育委員会教育委員の皆様方にはお忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。またこのような涼しいところを選んでいただいて誠にありがとうございます。先ほど教育次長から総合教育会議のなんたるかを私初めて聞きましたもんですから、非常に寒さとともに緊張しておるところでございます。今までフランクに会議をやらせていただきましたけども、そういうことなんだなと思いますので私も心を入れ替えて、今回の会議に臨んでまいりたいと思いますのでよろしくどうぞお願いいたします。 皆様ご覧になったと思いますけども、学校給食センターが、姿をみせて参りました。いよいよ竣工に向けて工事も急ピッチでございます。また学校の教育環境もですね、ICT の器具を揃えたり、Wi-Fi 環境を整えたりそういう準備が整いました。中身はこれからなのかなあというふうに思うところでございます。また今日の総合教育会議におきましても、その中身、飯島町の教育の中身をしっかりと論じで、素晴らしい教育の状況を作っていきたいなというふうに思っていますのでよろしくどうぞお願いします。今日は大変ご苦労様でございます、ありがとうございました。
片桐教育次長	ありがとうございました。 レジメに従いまして進めさせていただきます。初めての会議でございますので、自己紹介ということでよろしくお願いいたします。レジメをめくって頂いて１ページに名簿がございますので、あわせてご覧をいただきたいと思います。副町長からお願いします。
	（自己紹介）

宮下副町長	皆さんこんにちは、副町長の宮下ございます。 私も告示の会議は初めてで、いままで対面、そんな感じで来たんですが、よろしくお願いいたします。
片桐教育次長	教育長さんからお願いします。
澤井教育長	教育長の澤井です。よろしくお願いします。
上山代理	教育長職務代理の上山です。よろしくお願いします。
松崎委員	教育委員の松崎です。よろしくお願いします。
鈴木委員	教育委員の鈴木です。よろしくお願いします。
桃澤委員	同じく、教育委員の桃澤です。よろしくお願いします。
大島総務課長	みなさんこんにちは。総務課長の大島と申します。よろしくお願いいたします。
座光寺企画政策課長	今年度４月から企画政策課長でお世話になっています座光寺満輝と申します。よろしくお願いします。
那須野建設水道課長	こんにちは。建設水道課長の那須野と申します。よろしくお願いします。
片桐教育次長	教育次長の片桐と申します。よろしくお願いします。
森谷こども室長	こども室長の森谷です。よろしくお願いします。
渡辺学校給食係長	学校給食係長の渡辺と申します。よろしくお願いします。
北原子育て支援調整幹	子育て支援調整幹の北原千穂です。よろしくお願いします。
丸山生涯学習係長	生涯学習係長の丸山です。よろしくお願いします。
蟹澤生涯学習担当幹	生涯学習担当幹の蟹沢です。よろしくお願いします。
片桐指導主事	指導主事の片桐です。よろしくお願いします。
	３　総合教育会議について
片桐教育次長	ありがとうございました。それでは早速内容の方に入っていきたいと思います。着座にて失礼します。初めに、この総合教育会議につきましてご説明いたします。お手元の資料２ページをお願いいたします。 資料の３の１になりますが、１番の総合教育会議ですが、地方教育行政の組織および運営に関する法律の規定によりまして、全ての地方自治体にこの会議が設置されているものとなります。 ２の（1）目的でございますが、町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、飯島町の教育の課題や目指すべき姿を共有し、より一層教育行政を推進するために行っていくものでございます。１枚めくっていただきまして４ページです。資料３の２になりますが、この総合教育会議の設置要綱になります。また、後刻お目通しをいただければと思いますので、よろしくお願いします。それで

は戻っていただきまして協議事項に入らさせていただきます。飯島町総合教育会議設置要綱の定めによりまして、協議は町長が議長を務めることになっておりますので、ここからの進行を町長さんにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

４　協議事項

（１）教育行政に関する懇談

下平町長

それでは決まりによりまして、私が議事の進行を行いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。教育行政に関する懇談ということが主項目でございます。これにつきましてはあらかじめ問題点がピックアップされております。ひとつずつ皆さんでご協議いただきたいな、というふうに思いますので、よろしくお願いいたします。
お手元の資料によりますと、６ページをご覧いただきたいと思います。それでは１番教育次長読んでください。

資料４「令和３年度総合教育会議　教育行政に関する懇談内容」

①引きこもり対策など家庭支援業務の更なる充実について

片桐教育次長

①です。ひきこもり対策など家庭支援業務の更なる充実について。要旨として、家庭内で殺人や放火といった事件が多い中で、町として今も引きこもり対策に力を入れて頂いているが、大人の引きこもり対策も課題でございますので、予算と人員を増やしてさらなる充実を図っていただきたいということでございます。

下平町長

ということでございます。これをご提案いただいた方。それでは上山さんのほうから補足説明をじっくり語っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

上山代理

すいません。着座のままで失礼させていただきます。それでは説明させて頂きます。今の課題に関しまして、昨今の新聞紙上を賑わしています放火殺人、最近流行っていて、おとといも放火殺人がございました。大阪のビルでビル火災がございました。それと最近のことで、ここの辺では関係ございませんけれども、電車の中で放火をして殺人が行われました。これは京王線でそのような事件がございました。その前には、京都アニメーションの放火殺人とか、歌舞伎町での放火殺人とか、いろいろの放火殺人が起こっておりますが、さらに昨日ですか、有名人の神田沙也加さんが亡くなったという報道も出ています。どう言う原因ですかね。神田沙也加さんの場合は自殺だと言われています。真相

はまだはっきりしませんが。

そのようなことで、非常に今、人命が失われている状況に陥っています。ですから子どもを増やせといっても、せっかく子どもができても亡くなってしまいます。例えば虐待とかですね、それから引きこもりから始まって、あと自殺ですね、そういうようなことで人命が非常に失われておりますので、そんなことがないように、せっかく育んだ命ですのでそれを大切にして頑張っていただきたいな、というのが本心でございます。そういうような状態にならないようにぜひしていただきたいなと思っております。

どうも最近の原因としては、信毎（新聞）に書いてございますけれども、長期の欲求不満、他人を責める傾向、自分が破滅したと感じる体験、それから孤立などをあげている。ということが書いてあります。私が思うに一番は孤立が人間が感じるところではないかと思うんですね。一人になってしまうと、社会的動物である人間が一人になってしまうとどうしても究極なことを考えざるを得ない。そういうことで、そういうことをなくすために、小さい頃においては引きこもりとか、学校に来ないようになるとか、そういう対策をとっていただいて、大きくなってしまった場合には、できるだけ家庭内に引きこもることのないように職業を得るなどして、社会に貢献できる人材になっていただきたいと思います。ぜひこれに対する対策をお願いしたいと思っております。今でも十分対策ができていると思いますけれども、そういう人が一人でもなくなるように努力していただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

下平町長

昨今の社会問題を取り上げていただきまして、その原因の一つとして大人の引きこもりというものにも、その原因があるのではないかと、こういうことでございます。この大人の引きこもり対策について現状をお話いただければと思います。

宮下副町長

では私の方から。現状と対策ですかね。引きこもりは私が担当をやっている時はだいたい大人 100 人ぐらい可能性があるという状況でございました。傾向を見てもやはり不登校からだんだん始まるというのが多いと思います。小さい頃、小学校 1 年、保育園だったりいろいろ検査をして、持ってる特性もございますので、そこら辺がはっきりしてくるあたりから、だんだんと学校へ行かなくなったりとか、ということはあると思っております。そこら辺の支援は教育委員会の方で心得てやっていただいておりますし、健康福祉課とも連携をしてやってきております。

それからひきこもり対策については私がいたころよりも結構充実をしているかなというふうに思ってまして、社協さんを巻き込んでサポーター制度の構築ですとか、それから元保育士さん、学校の先生ですとか、そういう関心のある方も、サポーターとして県の研修を受けて登録をしていただいて、一緒にな

って考えてもらって、引きこもりの方の支援をしていくっていうことは、何件か増えてきております。
ただ大人になってしまいますと、基本的には仕事で社会復帰をして、世間と繋がりを持っていくということが必要かなと思っておりますけれども、傾向としては１回復帰をしてもダメになってまた元に戻って、また支援を受けるという傾向はあります。なかなか難しいなというのは感じております。

この頃引きこもりの話がすごく公になってきているものですから、家族の方が心配をされて相談に来るケースも増えてきていると聞いております。それから支援の輪もですね、サポーターをやっていただいた方は、支援をいただいたりとか、そういうふうにして実際に支援をしながら繋がりを持つ。まずちょっとこういう所へ行ってみようとか、居場所ですとかやすらぎ、うちで地域活動支援センター行ってみようとか、そういうところから入ってくるとかそういうことをやって、最終的には少し、半日ぐらい働いてみようかとか、マイサポ上伊那と申しますけども、就労支援をやってるところへ繋げたりとか、よければ直接そういう支援事業所へ登録してもらってそこへ通うとかですね、そういう方法はいくつか今選択肢がございまして、やっているところでございます。

ケース、ケースですごく特徴が違いまして、なかなか一通りに、通り一遍にこれをやればいいというものでもございませんし、その人の、そういうふうになった原因がまた違っておりますので、そこをつかんで、しっかり支援するために何年もお付き合いしなきゃできないっていうのは現状でございます。ただ、その支援体制だけは前よりもだいぶ充実してきて、社協さんにもお願いしたり、県にもお願いしたり、それから周りの障害施設の、そういうサポーターさんをやってらっしゃる施設がございますので、そことも連携を取りながらということで、こども室の関係とですね、お願いしたりとか、いろいろな連携をとりながら、常に気を配ってできるだけ社会に出ていただくような方法で支援をしているというのが実態でございます。

確かに京アニ事件ですとか、電車の事件、先日のビルの火災、孤立してしまっているっていう感じがします。できるだけ孤立させないという、できるだけ出てきてもらって話をして、声をかけるということも大変難しいのですが、家まで行って、部屋へ入れてくれないっていうのは結構あります。何回か行っているうちに出てきてくれるとか、じゃあ家じゃ嫌だから喫茶店行こうかとか、そのようなこともサポーターの皆さんはやってらっしゃると思います。こういうふうにして自分の車を使って行って、連れて行って話を何時間も聞いてっていうようなことをやっておりますので、まあ、ちょっこらちょいで良くなるとは思いませんけども、活動的にはですね、いろいろ繋げてできるだけ孤立させないという方向で動いているのは確かでございますので、完璧に対策というわ

けにはまいりませんけども、そういうふうにやってるということだけはご承知願いたい、というふうには思っております。以上でございます。

下平町長　副町長の方から対策の現状を説明いただきました。何かご質問はございますか。よろしいですかね。ありがとうございました。続きまして２番にいきたいと思います。

森谷さん、今日の２番の課題を読み上げてください。この皆さん方、いつも何も言うことはない。今日は使いますんでどうぞよろしくお願いいたします。

②町道北河原中平幹線の交通安全施設の整備について（資料４　別紙１）

森谷こども室長　はい、ありがとうございます。

②でありますが、町道北河原中平幹線の交通安全施設の整備についてということで、別紙１の資料がございますので、そちらをご確認いただければと思います。カラーＡ３横の資料４でございます。

要旨ですが、町道北河原中平幹線は２車線でスピードを出した車が往来する中、ひかり味噌の工場拡張により関係車両が増えるようであれば大変危険なので歩道など交通安全施設の整備をお願いする。ということでございます。以上です。

下平町長　ありがとうございました。これをご提案いただきました方。

松崎委員　はい。田切区の教育委員なので田切のことをご相談させていただきたいと思いまして、ひかり味噌がいつ動くのかわかりませんけれども、大きくまた工事をしていまして、そこの通りは 153 号線の田切の信号から下に降りて行くところなんですが、昔から変わらず歩道もなく、畑と家があるだけで、歩道というものがありません。見晴らしが良くて、結構スピードを、行きは駒ヶ根の方に行くときは結構下りになっておりますので、スピードが出ているような感じがいたします。

バイパスができた関係上、国道を通ってそちらの方に行くっていうのが以前よりは少なくなったかと思いますが、まだ高遠に行く方向とかに抜けれますので、車の通りはあります。子供たちも１、２年生はバスに乗っておりますので、通るのは高学年になるんですが、ただ中学校などもありますし、バイパスができたことによって通学路も変わっておりますが、ここのひかり味噌の新しくできる道だけは全然変わらないので、子供が通学路を歩いているときに事故がないように、もしも起こってからでは遅いので、歩道を高くしていただくか、歩道の幅を広くしていただかないと、逃げ道が、畑がありますけれども危ないので相談させていただきたいと思い提案しました。

下平町長　松崎さんの地元の田切の交通安全対策の方法提案でございます。現状の説明

は建設水道課長。

那須野建設水道課長　それでは、松崎さんのおっしゃられました町道北河原中平幹線の交通安全施設の整備ということで、まずひかり味噌の現状でございますけども、今の資料４の別紙１の丸がしてあるところがひかり味噌の拡張工事でございます。こちらですけども、お聞きするところによりますと、地元の北河原自治会とひかり味噌が協定を結んで対策会議を立ち上げておりまして、今現在工事車両につきましては町道北河原中平幹線の方から入っております。ただ竣工した後、稼動した時には、今のひかり味噌飯島グリーン工場北側の、こちらは町道田切北線って言うんですけども、そちらから車が入って来る。資材等の搬入については、そちらから入って構内に道を新たに作って、操業したときには今まで通り北側の道から工場の方に入っているとお聞きしておりますので、今現在工事車両についてはどうしても北の道から入れませんので、南側の道を通って入っております。今後工事関係の車についてとか、あと工場に入っている資材の搬入出については今まで通り北側となっていくようでありますので、それについては確認をしてございます。

また道路の関係ですけれども、今の工事を行う前からだと思うのですが、写真を見ていただきますと③、④ところにドットといいますか点線があるんですけども、そちらの視覚的にカーブということもありまして内側を狭く見せて減速させるということで、前からやっぱりご指摘のようにスピードを出す車がいたということもありまして、現状のようになっております。

ご要望の歩道についてなんですが、写真を見ていただくようにかなり道の両側の余地がありませんので、例えばグリーンベルトをやるとか、また仮に歩道を作ることになりますと、用地の買収とかもございますので、関係する機関というか町の中でも建設水道課を中心としまして、総務課にも交通安全の係がありますので、以前の千葉県の事故のあと、教育委員会事務局とか、県の皆さんとか、私たちもそうなんですけど現地を見て、その時にはこの場所の指摘はなかったんですけれども、その時にグリーンベルトとか関係する機関との話し合いの中で決めてまいります。今すぐにはご期待に沿えるかどうかわかりませんけれども、また現地の方は皆で確認しながら今後検討したいと思っております。よろしくお願いします。

下平町長　ご質問はございませんか。

ここ通学路ということになってるの？

森谷こども室長　はい。全線が通学路ではないんですが、幹線の指定と個別の家がその幹線に向けて歩いていきますので、その時の子どもがいる家庭から学校に行くまでの道が全て通学路という形になると思いますので、部分的に入ってくるっていう形なのかなと思います。

下平町長	そういうことが懸念されるようなのは町には、ここだけではなくてですね、数箇所あるんですけれども、一つの方法としてグリーンベルトをするとか、そういう対応ができますので、またしっかりと検討していただきたいなというふうに思います。 はい。ありがとうございました。それでは３番に入ります。渡辺さんお願いいたします。
	③与田切公園テニスコートの砂入り人工芝（オムニコート）化整備について
渡辺学校給食係長	③与田切公園テニスコートの砂入り人工芝（オムニコート）化整備について。 要旨、現在クレーコートだが、コート面が硬化して使用に耐えない状況です。また、雪の日は使用できないこともあります。また、周辺の市町村にも練習用のコートが少ない、練習場所の確保が喫緊の課題ですので、雪かきが必要ですがあまり天候に左右されず、公式戦も開催可能な砂入り人工芝（オムニコート）の整備をお願いいたします。
下平町長	与田切公園のテニスコートの件でございます。これをご提案頂いた方、松崎さん。
松崎委員	与田切公園のテニスコートを砂入り人工芝コートに建設するということで、今は１面２時間 600 円取っているんですけれども、それはとても失礼な値段だというぐらいコートが荒れています。クレーコートで売っているようですけれど、とてもクレーコートではなく、空き地みたいな感じです。600 円貰っていることが信じられなくて申し訳ないなと感じます。クレーコートとか公園とかなどは町の顔なので傷んでいると、「飯島町大丈夫かな？」みたいなぐらいお金が無いんだなと思われるので緊急に修正していただきたいと思います。 室内人工芝コートが２面でだいたい 1000 万円で安く出来て、ちょっと高くて 1500 万円でできるそうです。工事費は２面だと２週間ぐらいで出来るそうです。室内人工芝というのはコートのところにセメントをひいてその上に人工芝をひいて、人工芝を抑えるために砂で重しをするということで砂が２面でだいたい２０トンと聞いております。クレーコートだと雨が降ったらできませんし、雪が降っても積もってできませんが、この砂入り人工芝だと雨が降っても下から水が流れ出ますので、雨が降った後すぐテニスが出来ます。それと雪かきをしてしまえばテニスもできるので、全天候型でとてもいいと思います。 メンテナンスも砂をしっかり撒いてコート整備をすればだいたい 10 年間くらいは持ちます。ただ雪かきは機械が入れることができないので手で上手にしないといけないので、雪が降るときは機械が入れられないので大変ですが、雪

かきをすればテニスは出来ます。

今、近隣の駒ヶ根、中川、松川のテニスコートがあまり良くなくて、特に駒ヶ根は6面も砂入りの人工芝コートがあるのですが、とても古くて荒れているなか皆さん使っているようです。聞いた話によりますと来年度に修正する予算を駒ヶ根市は立てているということを聞きました。確かな話ではないんですが、そのように駒ヶ根市民の方が言っていました。中川はハードコートがあるんですけれども、ハードコートは古くてひび割れていますし、コンクリートなのでまた作るとなるとかなりの予算がかかってしまいます。松川はインドアの人工芝のテニスコートがあるんですが、今はフットサルに活用されていて、フットサルは痛みが激しいのであまりいい状態ではないと聞いております。

全天候型だと試合が確実にできますので、試合を呼ぶとまた町に人が来ますし、特に与田切の公園のテニスコートはキャンプ場施設と隣接しているので、大人の方とか泊まりながら、またプールもありますので子供がプール、大人がテニスと活用できるので町には良い収入になるのではないかと思います。また、合宿などにも来てもらって、高校の合宿所、大学の合宿所になって使うと夏だけではなく、冬も使えて良いと思います。

今、夜できないので、もしもオムニコートにするのであれば、ライトをつけてもらうとナイターも出来てよいと思います。テニスコートをナイターにすると、今、日中も夏などは高温で危ないんですけど、夜にまた涼しいときに活用が広がるんじゃないかなと思います。

是非とも今のクレーコートから修理するにあたっては砂入り人工芝コートに変えて欲しいと思います。以上です。

下平町長　はい、ありがとうございました。松崎さんなかなかテニスコートについて知見が広うございますね。提案する限りはあちらこちら近隣をしっかりと調べつくしてきていただいたということで、ご提案でも力が入っている訳でございます。松崎さん、基本設計から予算立てまで全部やってくれると感じたんですけど、はい、これについてはいかがですか現状は。

宮下副町長　与田切公園も３５、６年経つんですかね。だいぶ古くなってきて、テニスコートだけでなくてほかの施設もだいぶ老朽化しておりまして、今年度もオートキャンプのトイレを直すんですけども、今総合的にどうしようかっていう戦略を練っているところでございます。キャンプが増えてきておりますので、人は来てくれるかなというふうに見込んでおりますけれども、上の駐車場からテニスコートも含めて今の管理棟も含めてですね、今後どういう展開をしようかということを検討しているところでございまして、来年度は方針を出そうということになっております。言われることは私も中学高校とテニスをやっておりますのでよくわかるんでございますけれども、総合的に考えてですね、町の政策

	としてどこにテニスコートがあるのかいいのかを考えなきゃならないなと思っておりますので、もう少しお待ちをいただけたらなと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。
下平町長	問題意識はあるぞということでございます。千人塚もですね与田切公園も、最近結構人が入っておりますのでそういったことで、観光の観点からも総合的な計画をやっぱし作って、事業計画に沿った予算立てをしなきゃいけないだろうなというふうに思っておりますので、またその節にはいろいろ知恵を拝借したいと思いますので、よろしくどうぞお願いします。 続きまして４番。今の件はよろしいですか。４番に移ります。北原さん。
	④ＪＲ田切駅の駐輪場整備について（資料４　別紙２）
北原子育て支援調整幹	では④JR 田切駅の駐輪場整備についてということで別紙２の方をご覧ください。現在正式な駐輪場が無く、駅の階段下に屋根もない状態で無造作に駐輪していて、停め方によっては町道側にはみ出していることもあります。自転車通学をしたいが「いたずら」が多いから諦めているとの声を多く聞きますので、屋根付きでしっかりとした駐輪場の整備をお願いします。
下平町長	ありがとうございました。これも松崎さんだと思いますのでよろしくどうぞお願いいたします。
松崎委員	お願いいたします。田切駅のすぐ下の自転車なんですが駐車場は広いところがありまして良いんですが、自転車も駐車場のところに止められるんですけれど、なかなかそこに停める人も少なくて屋根もついておりませんので、どうしても屋根の下だと駅のそこの写真のすぐ裏に上る階段があるのですが、やはり近いところに自転車を停めてすぐ乗れるところに皆さん停められるんだと思います。それで本当にここのところは今自転車が停まっているところは駅に上る道にもなっていますので、自転車が停まってたりとかすると、人が道路に出たりしますので危ないなと思います。ここが丁度、写真切れてますけれども、家屋のところですぐ後ろはご自宅の駐車場にもなっていますので、朝の通勤などになりますと、通勤通学の時間帯になるととても道が狭いし、また自転車をここに停めるとなると、車との交差もありますので、今はまだ接触事故などは起こってございませんが、いつ何時起こるかもしれませんので、自転車の置き場所をここではなく駅のそば、近いところに屋根付きで停めていただけると、もう少し、今送り迎えが高校生だと時間取られますけども、親御さんも自転車で行けるんであれば助かるのではないかと思います。 ずっと 20 年間経ってますけれども、ここの状況は変わらず、区の中でもあんまり話題になってないので、田切区の人たちはなかなか坂などがあって、や

はり乗用車で、または歩きでということが多いんですけれど、赤坂のあたりになりますと、飯島よりも坂が下りになりますので、行きを自転車で行って、帰りが大変ですけれど上りで帰るという、丁度赤坂のあたりの方だと、田切のところを自転車で学生の方が使われる方もいらっしゃるようなんですけれども、停めるところが不安だっていう意見を聞きましたので、提案させていただきました。

下平町長　はい、ありがとうございました。駐輪場のご提案なんですけれども、飯島町には五つ駅がございますのでそこら辺の状況等も含めながら現状の説明をしていただけますかね。大島課長さん。

大島総務課長　ただ今の田切駅の駐輪場の整備ということでご意見をいただきました。実際のところですね田切の駅には正式な駐輪場というものはないんです。この写真にございます線路下の停めるところですね、ここも現実的には公衆用道路ということで、道路となっております。車が入らないように柵があるので、ここを利用して雨がかからないということで停められているのかなと思っております。

町としまして、他の駅につきましては数台づつでも停めれる所が駅の近くにあるという状況でございます。田切の所が駐輪場が無かったということで、現状今お聞きをしましたので、現場の方も見させていただきながら、道路管理者と、係りの方とも現場を見させていただいて、検討をさせていただければというふうに思います。

聖徳寺さんの駐車場の一角に町営の駐車場としまして５台分くらいでしょうか、場所をお借りしております。そちらの方で対応が出来れば良いのかなと思いますし、ただ先ほどもおっしゃったように、駅から一番ちょっと遠い位置になっておりますので、その辺も現場を見させていただいて、検討させていただければというふうに思います。以上です。

下平町長　はい。現場を改めて見て検討するということでございます。よろしいですかね。

松崎委員　はい。

下平町長　それでは続きまして５番に参りたいと思います。丸山さんどうぞ。

⑤資格取得について町の援助を

丸山生涯学習係長　はい。⑤番です。資格取得について町の援助をということです。働いてから資格を取るのは大変なので、高校生の時とか、例えば何級以上の資格に合格し、申請したら補助が出るようにして欲しい。子育て支援の一環として、ハイレベルな資格取得に関する制度の創設です。ということです。

下平町長　　はいどうぞ、資格取得について町の支援をいただきたいということでございます。どんな資格かなということも含めてご説明をいただきたいと思いますけれども。松崎さんよろしくお願いします。

松崎委員　　昨今、英検など、コロナで会場がなかなか手配できないということで、英検の検定料がここ２、３年で３千円か４千円上がりまして。前まで庶民的な金額だったのが２級、準１級、１級になりますと、７千円、８千円、一万円となってまして、とても家庭では受けにくい検定になってます。でも、英語検定とか持っていますと、大学の推薦入試とか、英語入試に関わってきたり、それから大学の授業の必修英語のクラス別になったりする際の参考になるなど、２級以上を持ってたりとか、こういうことにも関係してきますので、検定試験というのもいろいろありますけども、学校の受験などに関わってくるように今なっています。３級ではなかなか履歴に書けないのですけれど、だいたい２級以上だったりとかすると履歴に書けたりするようになってきます。

特に今資格検定も幅広くなっていまして、前まではだいたい子供たちが受けるのは漢検とか英検とかだったんですけれども、今だと文章読解作成能力検定、それから実用数学技能検定も準２級だと高校大学または会社の就職試験などにもとても影響があって、優遇されることもあるというふうになってます。それに小学生や中学生でも気象予報士など頑張って受けることがあるし、サッカーもホーム審判とか、高校生とかも受けることができたりしますけれども、受けるとなりますとお金もかかるし、交通費など、サッカーなど特に実地試験とかありますので、交通費などがかかったりしますので資格を受けるとなると自分だけではなく家庭も巻き込みますので、補助制度が何級以上、あと受けるに当たって、受かったら補助が出るとなると頑張れるかなと思います。

それに、家で不登校になっているとしても、得意な分野で、例えば歴史とか、それから ICT とかパソコンなど、学校の授業よりも更に得意なもので、授業や学校に馴染めないけれども、得意分野では頑張れるという子など、不登校になりかけてても、その力で頑張ることができるんだっていう、社会との繋がりがその資格っていうことで繋がりを持てることも家族の人にとっては希望になるのかなということもあるので資格取得補助について、小中学生や高校生の補助制度を考えてもらいたいということを思いました。

下平町長　　ありがとうございました。日本は資格社会といわれますから、なんでもかんでも資格によって評価され仕事も給料も違ってくるという社会でございます。小中学校、高校生の頃からも資格が取れるものがあるということですね。これについて受かったら町が補助するということで、そういった意識を盛り上げていこうじゃないか、というご提案でございます。これは教育委員会に関わる部分だと思いますので、片桐さん何かご感想はございますか。

片桐指導主事	今松崎さんのおっしゃる通りで、子供たちはいろんな資格を受けられるというか、それを持っているなということを感じています。この文章の中のハイレベルなところが、一律にどういうものをどういうレベルでっていうところが整理するのが若干難しいかなっていう、何をどうするかっていうのは、資格の具体的なものになってくるので、その辺のところを詰めていくかということはちょっと難しい面もあるかなと思いますが、子ども達がそれによって学ぶ意欲が、こういうことを学びたいな、という意欲づけにはなるのかなっていうふうに思います。その辺を整理していくあたりがちょっと難しい面があるかなっていうふうに感じています。
下平町長	ありがとうございました。それでは教育長どうですか。
澤井教育長	今片桐先生がおっしゃる通りで、いろいろ整理していかなきゃいけないんですが、教育委員会でお金を出せるかっていうと、高校生になるとなかなかこちらでっていうのは、難しいところもありますが、確かに英検の準２級あたりから履歴書に書いたりできると思うんですけれども、（受験料が）高いですよね確かにね。そういうところのモチベーションを作っていくっていう一つの手だと思います。ただ、お金がかかることですので、今日すぐにというわけにいかないので、お気持ちに止めといていただいて、この子育て支援を考える時の検討事項にしていただければと思います。
下平町長	例えば英検の何級以上がハイレベルになるのか、片桐先生はどういう基準を設けるかっていうことが非常に難しいというんだけども、数的にはそんなに予算が出て困るほどの金額になるのかね。
澤井教育長	高校生が、例えば商業高校とか工業高校は学校で勧める検定があるんですよね。電気工事士とか、商業なんかでも結構ありますから、そういうのを入れるかいれないかから始まると、結構な下調査をしないといけないが、中学生までだったら英検とか、数検とか漢検くらいなんですけど、高校生になるといろんな職業的な本来学校で申し込んで取るような資格が出てくるっていうのはちょっと整理が必要かなっていう気がします。
下平町長	こういう提案自体は面白いと思って。
澤井教育長	面白いですね。中学生までに絞って英検２級以上受かったら 3000 円上限とかそういうことをすればそんな金額にはならない。
下平町長	英検もある、数検も漢検もある。なんかちょっと面白そうな雰囲気がありますんで、ちょっとまた検討をしていただくということがよろしいんじゃないかなというふうに思います。ご意見ございます？
松崎委員	一般的な、昔から従来子ども達が受けてるものもあるんですけども、今、家でパソコンとかしてる子ども達もすごいできる子とかいるので、それがやっぱり検定とかあると、引きこもり対策じゃないけれど、やはり学校に行ってもこ

	ういう人たちはつまらないんですよね。もう授業とか解っちゃってるから。そういう子たちも自信を持たせてあげるために得意なパソコンとか技術系的なことも考えてあげて、もうそのレベルが高いのができますから、それができてるから社会と外れてないよっていう自信にもなるので、得意な子たちの資格にも繋げたら、社会の繋がりということで将来にすごい自信がついて、働けていけるんじゃないかなと思います。
下平町長	ありがとうございました。パソコンもブラインドタッチというのもある。飯島出身の子どもたちはパソコンに長けているというのはいいね。それではそういう希望を残してこの件は閉じたいと思いますのでよろしくどうぞお願いします。 続きまして第6番でございます。蟹沢さんお願いいたします。
	⑥教育委員会事務局の文化館への移転について（資料4　別紙3）
蟹澤生涯学習担当幹	教育委員会事務局の文化館への移転について別紙3になります。教育委員会事務局を文化館へ移転し文化館の活性化を図る。多くの町民から文化館の活性化が求められているなか、会計年度任用職員が来館者の受付等の対応をするにとどまっている現状ではなく、子育て支援、学校教育、社会教育や文化行政の事務事業執行を文化館で行うことで施策がスムーズに展開でき、町民にわかりやすく、出入りする人が増え、賑わいに繋がる。
下平町長	はい、ありがとうございました。教育委員会事務局の文化館へ移転してはいかがですかというご提案でございます。ご提案された方は、鈴木さんどうぞ。
鈴木委員	以前、教育委員会の中で報告を聞きまして、確かにグラフを見ると、町の経営から町づくりセンターに変わったときに利用者がぐっと減っているなというのが視て取れまして、私自身もここに中央公民館があったときに利用させていただいたことがありまして、その時には駒ヶ根の方に住んでいたのですが、フレッシュセミナーに参加させてもらって、お友達が作れてとても楽しかったなっていうふうがありますので、その時は人の出入も結構あったな、賑わっていたなというのがあるんですけども、今は閑散としている気がします。それを止めないといけないということで提案いたしました。 この人数の減りの違いは町の人口が減っていることだけではなく、コーディネーターをする方がここにいないので、窓口だけになっているので、だんだん利用者が少なくなっている気がします。いろんな施設を町の中心のところに今持ってきているので、ここを活性化することによって、町が元気になると思いますし、子どもの利用を私は使ったらいいのではないかと思います。ただ、生涯学習センターだけになると、イベントだけという形になると思うのですが、

そうではなくて、たとえば中学生が学校終わって歩いてきて、自主勉強をするだとか、習い事の場所貸しというのも、多少利益にも繋がりますし、人が来る。体育館だとかB&Gは習い事というか社会体育などに利用されていますけれど、文科系でサークルでもなくて習い事で貸したらどうかと。そうすれば来るのではないかと思いまして。何故かというと、小学生も中学生も、学校が終わってから、家以外で過ごす時間が習い事が大半を占めているんですよね。その時間がこういうところに半分くらい来れば賑わうということで、ここが活性化するのかなと思いまして、使い方を少し変えてやってみるといいのかな、という提案です。

下平町長　ご提案ありがとうございました。教育委員会の事務局の仕事をこっちでやれっていうそういう単純な話ではなくて、もっとせっかく出来たこの文化館に小学生、中学生、大人もですね気軽に立ち寄れる、そういったことを考えたらどうか、こういうお話かと思います。これについて現状と今お考えをお伺いしてのご感想、誰がお答えくださいますか。

片桐教育次長　今、鈴木議員さんが言った通りで、今は西庁舎というところに居るのですが、ここで準備やいろんな行事を行うことで、今西庁舎では器でしかない、会議ですとかそのくらいしかできないのですが、ここですと民間の方を呼んで、更に輪を広げた活動も出来ますので、是非教育委員会が一体となってこちらに移転をして、教育行政全般で町を盛り上げていきたい。ですので、移転を是非。

下平町長　単なる移転のことを言っている訳ではないだけではないと最初に申し上げたんで。中身の問題ですから。そういう活動しなきゃ意味がない。そこはどう思うかということで。どんな方法があるかということで。

片桐教育次長　まずは移転をして教育委員会が一体となって盛り上げていきたいという思いがございます。そこはよろしくお願い致します。

下平町長　という思いがあるそうです。

宮下副町長　教育委員会は、昔ここに居て（前職で）やっていたことも。人数的には人口も減っていますし、来場者は当然少なくなるだろうとは思っています。今次長さんはですね、移転と事務局を一緒にお話をされておりました。私はここはですね、今会計年度の職員さんがいらっしゃる、大ホールの委託ですね、その辺の町長も言いましたが企画が大事だと私も思っています。館（部屋）の貸し出しだとか、それから他の利用をするとか、そういうことはですね、別に教育委員会の事務局を置かなくても私はいいというふうに考えております。私の立場からですね、これを（移転を）すぐにいいっていうわけには参らないこともございまして、人口が減ってる中で、役場の中枢機能を1ヶ所に集めて効率よく運営するっていうことを考えますとですね、住民から見てもですね、一緒にあった方がいいという考えが出てまいります。人が減っているのに何故分けたの

ということが出てきてしまうので、効率よくやるっていうことも考えなきゃならないということを、私は頭の中でずっと思ってまして、次長が言われましたけど、あんまり「うん」っていうことは言ったことはございません。

ただ委託の関係の工夫の仕方ですとか貸し出しの仕方ですとか、そういうことはいくらでもですね、企画ができるんだろうと考えておりまして、そういうのは考えていただければ、いろんなものを考えて予算づけをするとか、することができるんじゃないかなと考えております。はっきり申し上げておきますが、ここへ職員を置くと改装しなきゃいけません。それだけでも、ここを改装しなきゃいけませんので、そうすると2000万ぐらいかかるんですよ。そういうことも頭の中に入れておかなければならないので、ちょっと私としては直ぐにウンと移転の関係は言うわけにはいかないのですが、ただ鈴木さんのご提案はそれでいいんじゃないかなというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

下平町長　双方歩み寄るところを段々という感じかと、町長の立場としては両方と段階的にやらなきゃいけないのかなあと思っております。はいどうぞ。

鈴木委員　移転する前と移転した後の効率はどのように変わったのか、そこをお聞きしたい。

丸山生涯学習係長　10年経ったんですか、それまでは、教育委員会がありまして、ただ教育委員会は、こども室が会議室1のところにあって、生涯学習係が事務所にいて、教育長さんはその奥の応接室っていう今言っている部屋にいたということで、こども室と生涯学習係が別れてましたので、役場に行ったときに、私達そこで仕事をしてた者にとってみれば、こども室と一緒にやって教育委員会ができることになったので、そちらはスムーズにいったことを覚えています。それは本当にそう覚えています。ただ、その分こっちが本当に人が来なくなっちゃったっていうのはすごく悲しかったですね。役場としての効率についてはちょっと私どもわかりませんが、その場にいた者としてはそういった感想を持ちました。

下平町長　そういうことだそうでございます。

鈴木委員　役場側からの効率の良さってなんですか。

宮下副町長　毎週、課長会もございますし、課長さんや次長さん教育長さんは、月曜の朝は防災対策室に必ず来ますので、いろいろ連携を取るのもですね、中にいた方が飛んできやすい、話をしやすいというのがあります。今縦だけで仕事はできないんで、子育て支援についてもですね、健康福祉課と連絡取ったりとか、ダーっと下を回っていけば向こうへ南と東へ行って両方で話ができる。何か問題があった時も、こっちへ来るんでなくて、向こうへ行けばできるっていう格好になってるから、職員的には一緒にあった方がいいかなと私は思っています。そんなところでよろしいですか。

鈴木委員	わかりました。ありがとうございました。
桃澤委員	教育委員会、委託をしてましたよね、文化館について。その委託先が、変わるって案件があったように記憶してるんですが。そのときに、文化館の活性化を図ろうじゃないかという検討会ができたような、そこで出された結論みたいな提案があったと思います。その提案は、実現に向かって進んでいるのかと思っています。気になっているところでして、できたらその提案を、折角公募かなんかして検討会を設けて提案うけているんですから、それに対して具体的な動きがあるんでしょうか。
丸山生涯学習係長	その提案というのが社会教育委員会議、教育委員会の方から諮問をして答申をしていただいたっていうのがあります。で、その答申書は結構しっかりと作られましたんで、その中にデータがグラフもその答申書の中からの引用だと思いますが、結論としては、答申の結論としては文化館を活性化するために、二つ方法があるんじゃないかということで、一つはそういう意欲のある個人だったり団体に指定管理をして文化館を活性化してもらうっていう方法と、もう一つは、教育委員会が一体で戻ってきて管理する、２者択一の答申をいただいてます。その答申に至る背景として、議会で指定管理の否決を頂いたことがあるもんですから、残ってる方法としての教育委員会が直営で管理するっていう方法の方が、指定管理というところで受けていただくかっていうこともあるんですが、教育委員会が直営で活性化させる方法の方がベストではないかというふうに、教育委員会移転と考えているんですが、そういうところで止まってるっていう。現実です。 答申いただいているのは令和２年の１月ですので、２年前ぐらいに答申いただいてますが、その結論的なところは進んでないっていうのが現状です。
下平町長	ありがとうございました。こういう委託の会社も決まって進むところで議会の反対をいただいてストップしたということでございます。それで差し戻ったのだけども、それでやはりこういう形がよかろうということを再提出してもよろしいわけでございますので、議会の皆さんも替わっていますから、これもしっかりですね、それに捕らわれることなく、否決だから駄目だということではなく考えていただきたいと思いますし、この各部屋を職員で埋まってしまったら、さっき言った鈴木さんの目的の小学生の配慮をする場所がなくなってしまうわけでございますので、そういったことを考えなければ、どのような人に来ていただいて、どのようなことをするかという、そこら辺をまずやらないと、職員が全部こっちに来てということではないんだろうなあというふうに思うところです。しっかりと検討した中で一番いい方法を、また議会に提案していくのがいいのかなというふうに私は思っております。一言教育長どうぞ。
澤井教育長	そのときの議会の議決を受けて教育委員会としてはここを活性化するため

にいかにすべきかという大きな命題を背負ってるということです。先ほどの便利の良さということと違う観点で言えば、ここに教育委員会があればこういった会議も普通の教育委員会等でやるし、関係する人の出入りも多くなる。ということから、実際に使う率も高くなっているだろうということがありましたけど、鈴木さんの提案のようにいろんな催しもできるだろう。例えばそれ以外の去年文化祭の展示だけロングランでしたんですけど、そういうイベントでは人が来ないことがわかったんです。日常使いで勝手が良くないとなかなかこの利用が増えないかな、ということで私は教育委員さんといつも懇談をしているので、この事務室を広げてこっちに来れればいいねっていう話はしていますので、その旗印をまだちょっと降ろせません。またこれからもですね、すぐにちょっと「うん」とは言ってもらえない、永久に言ってもらえないかもしれませんけど、我々としては教育委員会としてはそういう要望をですね、これからも町に挙げて、また先ほど町長さんからもありましたが、新しい委託とかそういうことも考えられることも含めながら、検討しつつ、やっていければなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

上山代理　ちょっとすいません、すいません。時間がなくなって。今の件ですね、もしできましたらこれから検討するにあたりましてですね、上伊那地区の状況を、市ではどうやっている、町ではどうやっている、そういう状況もですね、ちょっと勘案していただいて、人の動きもあります。それで文化館と一緒にやってる、教育委員会と一緒にやってる、別々にやっている、調査いただいて、そういうのもあるということで、人集めの方法とかも調べていただいて、どちらがいいか検討していただけたら思います。

下平町長　ありがとうございました。現状、今後教育委員会の重要な課題ということで位置づけて、結論を出していただきたいと思います。この件はよろしいですか。

それでは続きまして第７番の項目に移ります。ずっと戻ってまいりまして、次長さん。

⑦子どもの意見を直接聞く場を設けて欲しい

片桐教育次長　７ページです。⑦子どもの意見を直接聞く場を設けて欲しいということで、危険箇所や不審者情報など子どもの目線のヒヤリハットが直接町へ届く仕組みを整備して欲しいというものでございます。

下平町長　ご提案いただきましてありがとうございます。この件は鈴木さんどうぞ。

鈴木委員　危険箇所、不審者と要旨にありますが、この前防災マップを新しく頂いたんですが、親が見る目線、車から見る目線と子どもが見る目線、歩いて見る目線と、子どもが実際に子どもの目線で歩いた危険箇所はちょっと違うので、子ど

も自身が自分で歩いて「ここが危険だな」と思う箇所を直接積みあげる仕組みが欲しいなと思ったのですが、いろんなところを経由して町に届くのであれば、子供の声が直に届けば、スムーズに行くかなということが、実際に自分で、この新しいマップが届く前に、事故があったりして、子どもと一緒に歩いて欲しいと学校から言われて、一緒に歩いたのですが、自分はいつも車に乗って道を行っているので、信号の感覚がやっぱり違うので、やっぱり歩かなければ、歩いて自分の子どもが、そういう道をどこが危険かということを分からないといけないなと、背の高さが違うので、小さい子だとどこら辺まで見えるとか、そういうところが子どもじゃないとわからないなというところがあって、それを積みあげるのが年に一回しかないのですが、学校経由で言っては来ると思うのですが、何かといったときに、年に一回でなくて、直接言えるようなルートがあるといいなと思いました。それだけではなくて、子どもの意見を聞く場として子ども議会でも、年に一回か機会を作って頂いているのですけども、以前からの町長さんが七小の家庭科室で座談会みたいなことをして、6年生の子どもたちとお話をされていたことを記事でみた覚えがあるのですけど、こんな形で直接子どもと話をしていただく機会を少しいただけたら、子どもが普段思っていること、子どもから親経由とか、いろんな人経由じゃなくて直接、いろいろ言うと思うんですけども、そういう機会を作るっていうのもまたひとついい経験かなと思って、お忙しいと思うんですけども、そういう機会を作っていただければいいなあと、感じて提案しました。

下平町長

はい、ありがとうございます。まあ、2つの問題を一度に言われて、町長が直接話を聞けという部分と、普段の、日頃のヒヤリハットしたそういった情報をどういう仕組みで集めるかという2つの問題もね、提案されて、町長のことについてはできるだけやりたいと思ってますけどね。なかなか子どもは、緊張してフリートークにならない、ものすごく緊張して、場合によっては出てくるけど、町長と気楽に話すことに慣れてくるのも大事だと思いますから、心がけたいというふうに思っております。

それでそのヒヤリハットのそういった情報を、今どういう現状で集められているのかという状況をお伺いします。

森谷こども室長

先ほど年に1回っていうふうに言われたのはご承知かと思いますが、PTA ・学校を通して陳情をいただいております。事務局、関係者が危険箇所ということでまとめていただいたのを一覧にして受け取って、それを担当が安全対策に取り組んでいるところでございます。今年は交通安全合同点検がありましたのでそちらの方に参加するという形で飯島小学校から PTA の 校外指導部長さんもご参加いただきながら、警察等関係者も含めて点検を行いました。国から幹線道路のう回路が今回特に命題としてありましたので、そこを中心に対策をと

るということでございますので、PTA の方も、必ず確認するように見ていただけると思いますので、毎年人が変わりながら違った目線で点検をいただいて、こちらでも確認させていただく状況です。以上です。

下平町長　という状況だそうでございます。よろしいですか。

鈴木委員　年に一回というのをもう少し回数を増やして頂きたいっていうことは、難しいですか。

森谷こども室長　そうですね。地元の話もあるので、今、忙しい中に時間をとって夏休みの時間を使いながら、まとめていただいて、出していただいているっていう状況になりますので、ちょっとこちらだけではなくて、地元の話もありますので、検討だなと思っております。

下平町長　ということでよろしくお願いいたします。続きまして８番に移りたいと思います。

⑧適正な職員配置について

森谷こども室長　８番の適正な職員配置について。会計任用職員が就いている図書館司書、主任給食調理員、担任保育士など責任がともなう職については正規職員の配置をお願いしたい。というものでございます。

下平町長　ありがとうございました。これを御提案いただいた方、鈴木さんどうぞ。

鈴木委員　図書館の司書、学校の給食センター等、一部のクラス担任の保育士さんが非正規職員で働いていらっしゃるということで、それなのに正規と同じ責任で働いていらっしゃるので、資格のところにもあるんですが、資格もあるのに、お給料が低いっていうのは、募集しても応募がないっていうのはそれが原因かな思いまして、やっぱり責任がある、資格もある仕事であればそれなりの代価をお支払いしないと、募集かけても来てもらえないのかな。学校給食センターを新しくするのに、そこに働く人がいないと困ってしまいますので、見直していただきたいなと思います。

責任があるけれども非正規、ていうのが釣り合わないところで、もし非正規であるならば、仕事の内容を変える、ただ仕事の内容を変えるんであれば、恒常的なな指導的な業務はいったい誰がやるのかということもありますが、もし正規職員として同じような責任をそのままやっていただくのであれば、非正規職員として募集をするのはどうかなと思います。そうじゃないとやっぱり応募なしの現状が、ちょっといたたまれないというか、子どもたちの給食にそのまま跳ね返ってきますので、保育士さんもそうですし、本を借りる子供たちも借りれなくなってしまいますので、そこは考えていただけたらなと思い提案しました。

下平町長　はい、ありがとうございます。職員配置については常に頭を悩まして、頭がだいぶ薄くなった副町長ですが。

宮下副町長　鈴木さんおっしゃる通り、ずっと募集かけて来ない現状でございます。図書館司書はですね、今、職員は持っていらっしゃらない。前はいたような気がしたんですけれど、いらっしゃらないと思います。ただですね、ポジション的にですね、そこへ正規職員をもっていって他の業務が回るかということがございますので予算立てのあたりからちょっとその処遇改善は考えていきたいと思っておりますし、総合的に管理環境ですね、見直す時期が来てるかもしれないと思っておりますので、その中で検討させていただきたい。

下平町長　ということでございますので、よろしくどうぞお願いいたします。最後の９番でございます。

⑨ＧＩＧＡスクール・ＩＣＴ整備の効果検証について（資料４　別紙４）

桃澤委員　ここの１、２年で学校の基盤整備が進み、予算的にも感謝したいと思います。二つの大きなことが進みました。一つは、給食センター。40 年来の希望だったんですが。それから、おかげでタブレット端末がほぼ 100%近く配られました。オミクロンで第６波が来るか分かりませんが、来たとしてもリモート学習ができる材料は揃っている。どう使いこなすかはこれからの課題ですが、本当に町民の一人として感謝しているとこです。

その意味でも、うまく使いこなしていくことが重要で、給食センターにしろ、ICT 教育にしろ、そうなると運用とかソフトの話になる。お金がかかるんです。今の子供たちが就職する頃は、 AI と就職を勝負する時代が来ると言われています。せっかく揃った道具をうまく使って準備しておけば、飯島の子たちはそれに負けず AI の中で生きていく基盤になると思いますので、そういうソフトウエアというか運用を支える人の整備とかサポート体制とか、先生への運用の仕方を整備して、とりあえずそんなに時間が経ってないんで、メリットデメリットが出そろってはないと思いますが、これからどうやって運用していこうかと考えると短期間でも成果を見出して次に進んでいく必要があると思いますので、その前に整理したもの必要かなと思います。ここに別紙４がありますので簡単に説明していただければと思います。

（時間の都合で桃澤委員から提案のみいただく）

澤井教育長　続きは次回の会議で行いたいと思います。

下平町長　それぞれの課題をしっかりとご議論いただきまして、方向性が出たもの、ま

たしっかり検討しないといけないもの、大きな課題を残したものもいくつかあります。真摯に取り組んで参りたいと思いますので、今後ともよろしくご支援のほどお願いいたします。今日は大変ご苦労様でございました。

午後２時50分

以上の議事録は、教育委員会事務局教育次長　片桐雅之　の記載したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

飯　島　町　長　下平洋一

飯島町教育長　澤井　淳

同職務代理　上山隆三

飯島町教育委員　松崎充恵

飯島町教育委員　鈴木富美

飯島町教育委員　桃澤宗夫